Poster Presentation

Sat. Nov 1, 2025 1:00 PM - 1:50 PM JST | Sat. Nov 1, 2025 4:00 AM - 4:50 AM UTC | venue(Kanamori sangyo hall)
[P1] ポスター発表 #1

[P1-31] 個人と周辺住民のソーシャル・キャピタルの関連とその空間的範囲― 兵庫県養父市の高齢者を対象として ―

*kaito Iwamoto[1], Masaya Uesugi[2], Kenji Narazaki[2], Yu Nofuji[3], Hiroshi Murayama[3] (1. Graduate School of Fukuoka Institute of Technology, 2. Fukuoka Institute of Technology, 3. Tokyo Metropolitan Institute for Geriatrics and Gerontology)

Keywords：ソーシャル・キャピタル、空間的範囲

本研究では、周辺環境を距離ベースと人数ベースの2指標で定義し、個人のソーシャル・キャピタル（social capital; SC）と周辺住民のSCの関係、さらに空間的範囲の変化による関係の強さの変動を検討した。データには、2022年に養父市および東京都健康長寿医療センターが実施した「第3回養父市高齢者健康調査」（65歳以上対象）と「養父市健康調査」（35～64歳対象）を使用した。解析対象は、前者は3543名、後者は2796名である。SCの構成概念として、近隣信頼感（SC1）、互酬性・規範（CS2）、近所付き合い（SC3）、社会参加（SC4）の4種類を用いた。個人のSCは調査回答を順序尺度で評価し、周辺のSCは周辺住民の平均値で算出した。分析の結果、全てのSCで周辺距離や周辺人数の増加に伴い、個人と周辺のSCの関係は弱まった。特にSC3は一貫して他より弱かった。また、距離100～300m、人数10～30人の範囲では、「周辺」を行政区で定義したときよりも個人と周辺のSCの関係が強かった。

©一般社団法人地理情報システム学会